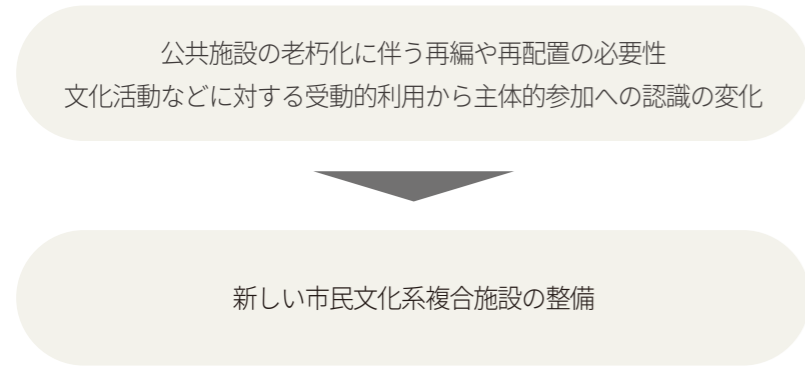
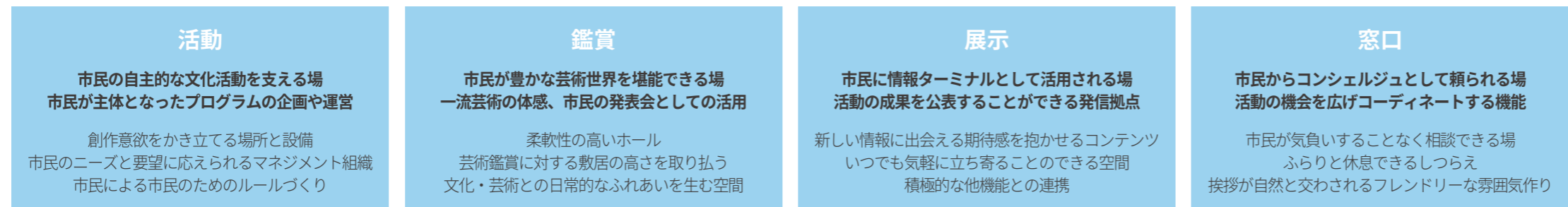
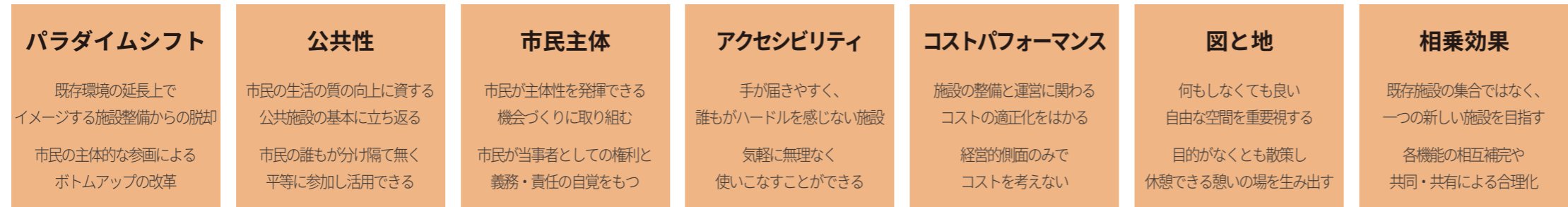
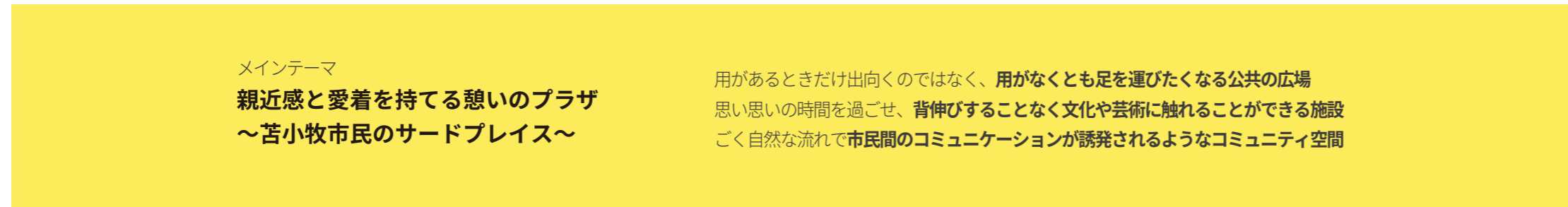


新しい文化系複合施設の必要性



人が輝き文化の薫るまちづくりを醸成するためには、市民が自立的・自律的に活躍できる創造的な場こそが重要です。

これまでの市民文化系施設で育まれてきたコミュニティを継承し、さらに高度で創発的な文化・芸術に係る活動と交流を振興する拠点として、新しい市民文化系複合施設の整備が求められます。



基本構想・基本計画の位置づけ

公共施策の建設において**基本構想は、建物の計画や設計を具体的に進めるためのガイドラインとしての役割**を担います。すなわち、設計後の建設や竣工後の運営も含め一貫して最上位に位置付けられる価値判断基準を定めるものです。

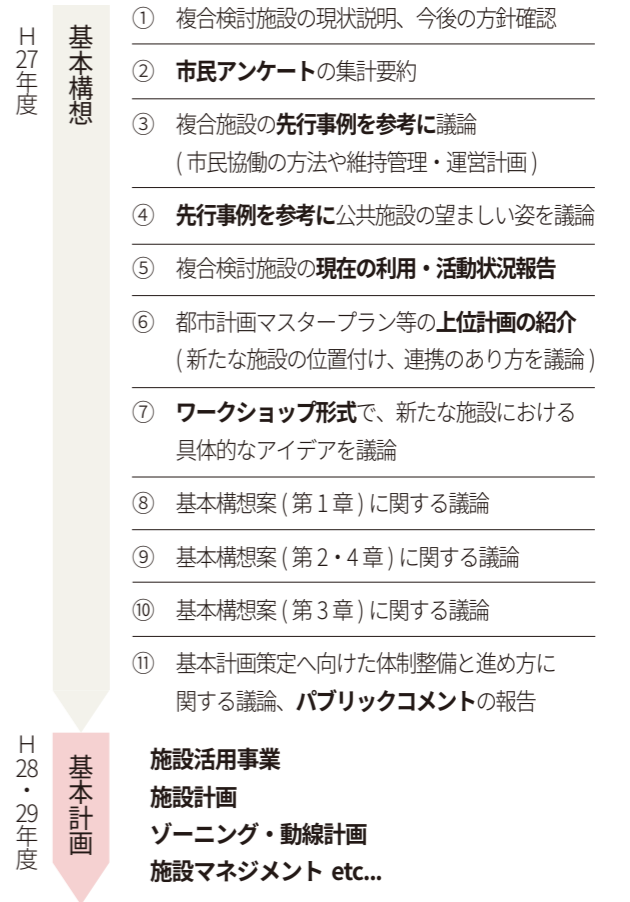
さらに、今後検討していく**基本計画は、基本構想をもとに基本設計を行うための条件整理としての役割**を担います。つまり、施設規模や施設計画、建設後の活用事業など、より具体的な課題や方策を定めるものです。



メインテーマ・7つの基本理念・4つの基本的な機能

施設のコンセプトであり、今後の検討における最も重要な施設の価値観として、**メインテーマ**を掲げます。また、**メインテーマを実現するために必要な考えや視点として、7つの基本理念を設定**します。さらに、老朽化の著しい市民会館や文化会館などの**周辺施設を発展的に集約・再編するために、4つの基本的な機能を備えます**。

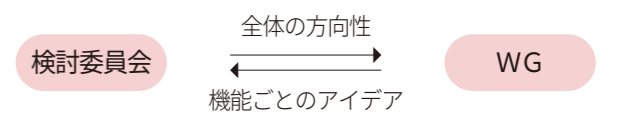
検討経緯



基本構想検討委員会では、平成27年度に全11回に及ぶ会議を開催し、市民協働による周辺施設の再編整備の方針を議論しました。

基本計画策定では、**平成28・29年度の2年間をかけ**、さらに活発な市民協働の議論を続けていきます。

基本計画策定に向けて



基本計画検討委員会では、機能や規模について詳細な議論をするために、機能ごとに分かれたWG(ワーキンググループ)を新たに設置します。

検討委員会は施設全体の方向性を、WGは各機能ごとのアイデアを担当し、**検討委員会とWGが連携しながら**議論を進めていきます。